

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

本縣下ノ「マラリア」ハ隔日熱型ニシテ病竈地ノ住民ノ多クハ幼時ヨリ數回之ニ犯サレ居ルヲ以テ發病スルモ其ノ症狀輕ク發作ノ日ト雖モ勞働ニ從事シ惡寒發熱ノ際僅時休憩スル位ニシテ就床治療スルカ如キハ極メテ稀ナリ偶々發熱醫療ヲ乞フモ「マラリア」ノ病名ヲ附セラルレハ醫ノ診療ヲ廢スルノ有様ニシテ本病ヲ意トスルモノ少シ

本病竈地ハ湖邊一帶ニシテ内湖又ハ水ノ溜溜シ易キ場所多シ而シテ住民ハ農ヲ業トシ中ニハ漁業或ハ商工業ニ從フモノアリ縣内ニ於ケル本病竈地ト他地方ト保健上ニ就キ詳細ナル比較研究ヲナシタルモノナシト雖モ別段ノ差異ナキカ如シ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

前記大正七年小學校兒童ノ本病罹病者數十五%以上ノ地方三%以上ノ地方三%以下ノ地方發病者ナキ地方ノ四ツニ區別シ大正三年ヨリ大正七年迄五ケ年間ノ徵兵合格者數ノ比較ハ左ノ如シ

- 十五%以上ノ地方 八十六人五分
- 三%以上ノ地方 八十四人六分
- 三%以下ノ地方 八十七人五分
- 發病者ナキ地方 八十九人

市郡名	町村数	大津	滋賀	高島	栗太	甲賀	野洲	蒲生	神崎	愛知	大上	阪田	東淺井	伊香	合計
		一	一四	一七	一五	二五	一三	二六	一三	一五	二〇	一九	二二	一三	二〇三

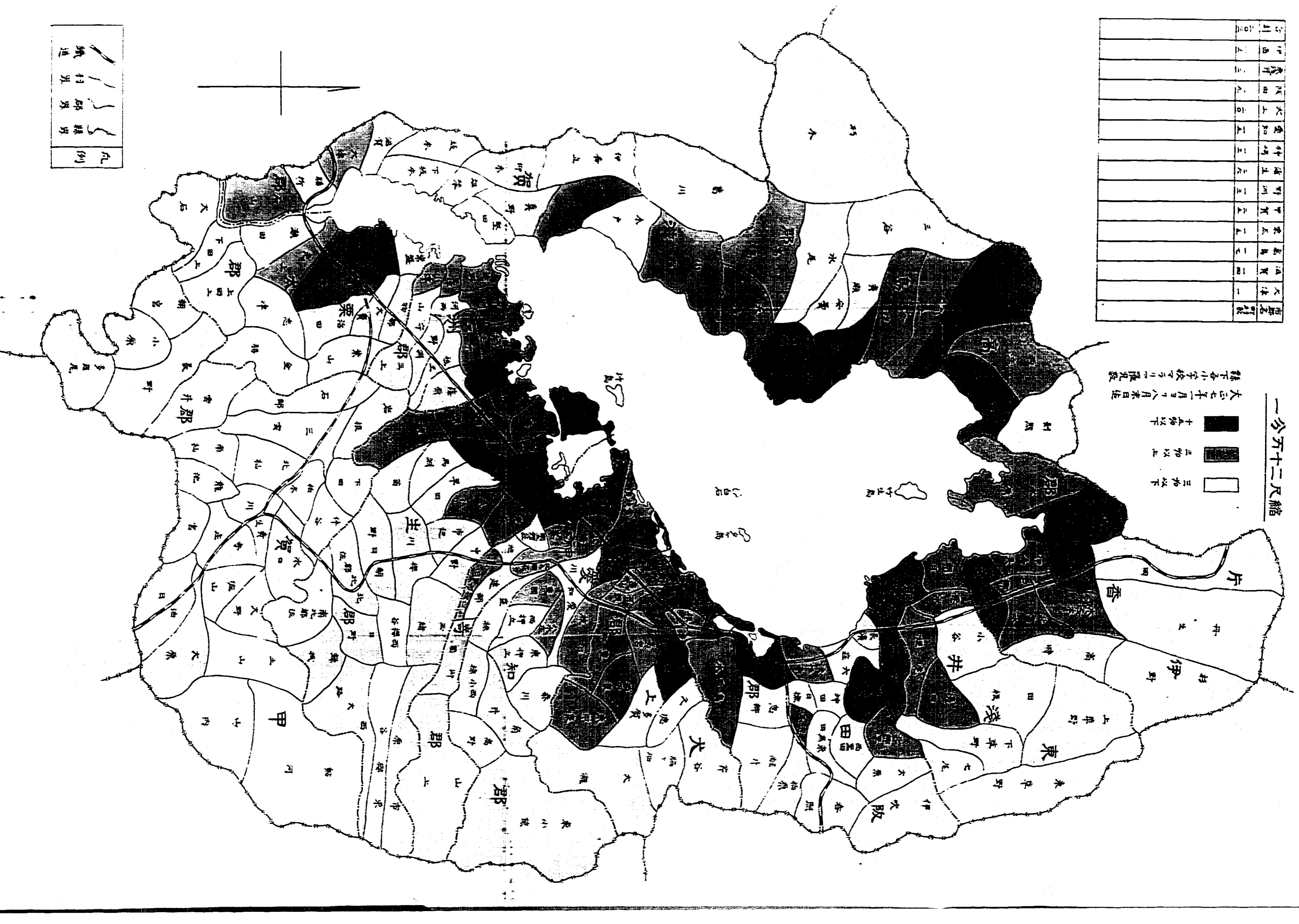
道界界界

高松	一
津	二
高島	七
東山	五
宇賀	六
野洲	三
津島	六
神崎	三
愛知	五
大上	四
四日	一
桑名	三
伊豆	三
三河	三

一分五十二尺縮

大正七年一月ヨリ八月末日迄
 縣下各小字按テリニ附允致

- 三カ以下
- 三カ以上
- 十カ以下

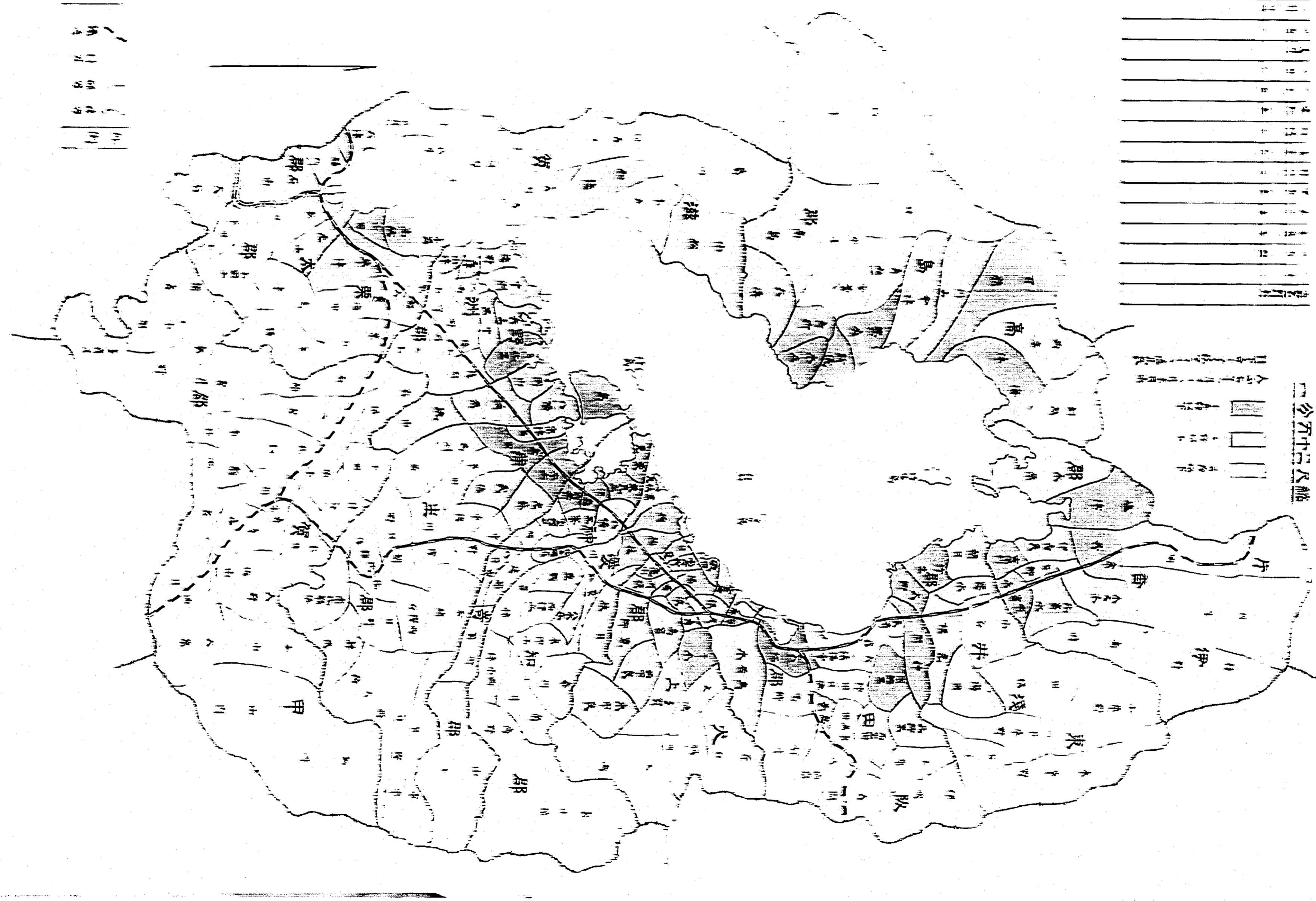


	例
	縣界
	村界
	鐵道

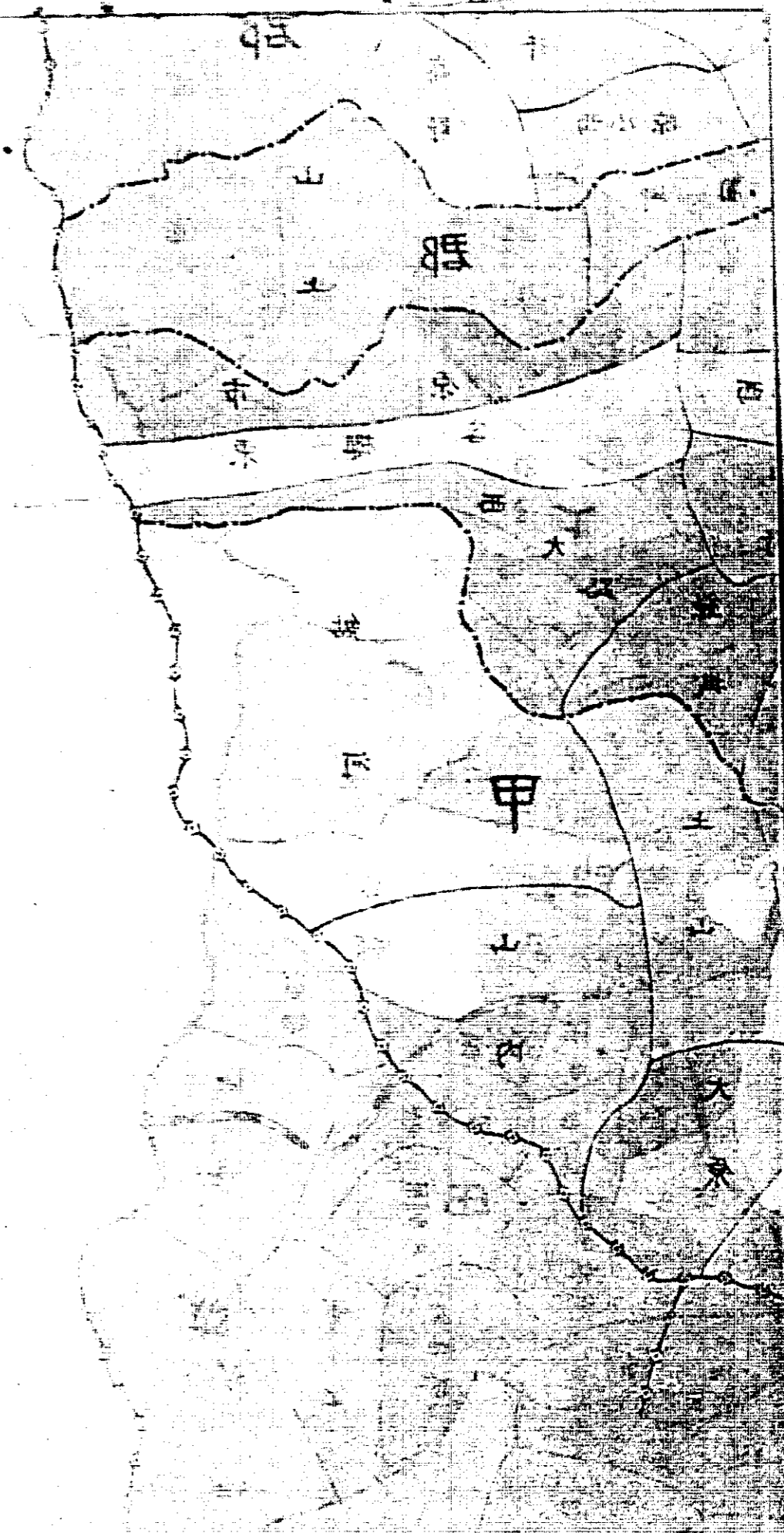
伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予	伊予
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀
伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊
那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀
甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲

一、分界中區尺繪

分界中區尺繪
 全分界中區尺繪
 分界中區尺繪
 分界中區尺繪



一、分界中區尺繪
 一、分界中區尺繪
 一、分界中區尺繪
 一、分界中區尺繪



五、「マラリア」豫防撲滅ニ對スル施設

本病豫防ニ關シテハ大正二年六月縣下各郡市長警察本分署長ニ照會通牒等ヲ發シ又一面別紙ノ印刷物ヲ町村役場縣立學校等ニ配布シ又衛生講話會展覽會ノ際本病ニ對スル智識ノ普及ニ努メ豫防施設ノ實行ヲ督勵シ居ルモ住民ハ習慣上本病ニ對スル觀念極メテ薄クシテ其ノ主旨ノ實行セラレサルハ遺憾トスル所ナリ

本病豫防ニ關シ發シタル通牒照會等

「マラリア」豫防ノ件

(大正二年六月十八日各郡市長及警察本分署長ニ發シタル依命通牒)

「マラリア」ハ地方的疾患ニシテ其ノ發生地方ニ於テハ久シク此病ニ慣レテ等閑視セルモ之レカ爲メニ勞働力ヲ減損シ管ニ衛生上危害ヲ生スルノミナラス社交上經濟上ニモ其ノ影響スル所頗ル大ナルヲ以テ部民ニ對シ別紙豫防心得ヲ周知セシメ之カ撲滅方ニ御盡力相成度尤モ本縣下ニ於ケル本病蔓延ハ其區域甚大ナルヲ以テ之カ豫防撲滅ヲ企圖スルカ爲メ餘ニ其ノ聲ヲ大ニシ本縣ヲシテ本病流行地ト世人ヨリ看做サル、ニ至ラハ却テ本縣來往ノ他地方人ヲシテ疑懼ノ念ヲ起サシムルノ不利益アルヲ以テ此邊特ニ御留意ノ上御措置相成様致度依命此段及通牒候也

撲滅ニ關スル件

(大正二年六月十八日各警察本分署長へ通達)

本縣ニ於ケル「マラリア」豫防撲滅ニ關シ本月十八日別紙ノ通シ各郡市長ニ對シ依命通牒致候處之

カ實行ニ就キ一面郡市長ト協議スルト同時ニ各署ハ本月ヨリ各受持巡查ヲシテ毎月一回（毎年四月
月）検病的戸口調査ヲ行ハシメ「マラリア」患者ノ發見ニ努メ左記事項ヲ實行シ本病ノ豫防撲滅ニ
努力セラルヘシ
右及通達候也

追テ豫防心得何葉部長派出所巡查駐在所備付用トシテ別便ヲ以テ送付候ニ付申添候

一、マラリア患者ヲ發見シタルトキハ便宜町村長區長又ハ衛生組合長ト協議ノ上左ノ方法ヲ採ル
コト

一、「マラリア」患者ニハ直ニ治療ヲ加フル様懇諭スルコト

一、「マラリア」患者ハ必ス蚊帳内ニ隔離スル様奨勵スルコト

一、「マラリア」患者ヲ出シタル家族ニハ豫防的服藥ヲ爲ス様奨勵スルコト

一、「マラリア」患家ハ蚊ノ襲來及發生ヲ防ク爲メ溜水ノ掃除及蚊燻ヲ爲スコト

二、マラリア患者ヲ出シタル地方ハ毎年四、五月及十、十一月ノ交ニ於テ一致ニ蚊燻ヲ爲サシム
ルコト

同 上 （郡市長宛）

本縣ニ於ケル「マラリア」ノ豫防撲滅ニ關シ本日依命通牒致候處之レカ實行ニ關シ本日各警察本分

署長ニ別紙ノ通り（^{上記}番面）通達致候ニ就テハ本病ノ豫防撲滅ニ付キ所轄警察本分署長ト篤ト御協議
相成度尙町村長及區長ヲ介シテ部民一般ニ豫防法ヲ周知セシメラレ度豫防心得 葉（町村區衛生
組合備付用）別便ヲ以テ送付可致候條御取計相成度候

六、「マラリア」豫防撲滅ノ事業等ニ要セル經費關係

本病豫防ニ關シ經費ヲ支出シタル町村ハ只犬上郡彦根町ノミニシテ左ノ如シ

大正三年	九拾圓
同四年	五拾六圓
同五年	貳百貳圓
同六年	千貳百五拾壹圓
同七年	貳百拾八圓

七、將來ノ計畫

前記豫防事項ノ徹底ニ努ムル見込

八、其ノ他參考トナルヘキ事項

ナシ

「マラリア」豫防心得

「マラリア」ハ普通「オコリ」ト稱シ古來ヨリ存スル病ニシテ、蚊ノ媒介ニ依リ之カ病毒タル微細ナル寄生物(原虫)ノ人體内ニ入ルニ依リテ發スルモノナリ、本病ハ池沼多キ地方又ハ河口等ノ如キ濕潤ノ地ニ多シ

蚊(「マラリア」蚊チアノフエレスト云フ)ハ元來病毒ヲ有スルモノニ非ス。偶患者ヲ刺シ原虫ヲ含メル患者ノ血液ヲ吸ヒ、初メテ有毒蚊ト變スルモノニシテ人此蚊ニ刺サルレハ忽チ本病ニ罹ルナリ。故ニ之カ媒介タル蚊ノ發生ヲ防クハ「マラリア」ノ豫防撲滅上最モ緊要ナルコトトス

一般ニ蚊ハ前年秋冬ノ頃ニ於テ懷胎シタルマ、天井裏又ハ日當リノ好キ樹木ノ皮下等ニ隠レテ越年シ四五月ノ頃ニ至レハ飛來リテ人ノ血液ヲ吸ヒ生活シ、産卵ニヨリテ繁殖スルモノナリ。「マラリア」蚊モ亦之ト同シク、秋冬ノ候「マラリア」患者ノ血液ヲ吸ヒ、有毒蚊トナリテ、冬眠シ、温暖ノ候ニ至リ吸血慾ヲ起シテ人ヲ襲ヒ、病毒ヲ傳染セシムルモノニシテ、此蚊ニ刺サレタル人ハ直ニ本病ニ罹ル、初發「マラリア」患者ハ即チ之ナリ。此時期ニハ蚊ノ發生未タ多カラスト雖、漸次夏季ニ向フニ從ヒ、其繁殖夥シク人ノ刺ル、機會亦從テ多クシテ益々病毒ヲ散蔓セシムルモノナリ。故ニ左ノ方法ヲ採レハ本病ノ豫防撲滅ニ至大ノ効果アルモノナリ

一、蚊ノ發生ヲ防クコト

蚊ノ發生ヲ防ク簡易ナル方法ハ、先ツ下水及汚水ノ流通ヲ圖リ排泄口ナキ水溜ニハ、四日目ニ一回位

全水面ヲ覆フニ足ルヘキ石油(又ハ害虫驅除用原油)ヲ灌キテ、蚊ノ幼虫タル子子(ポーフリ)ヲ死滅セシムルヲ必要トス。子子ハ常ニ水面ニ浮ヒテ呼吸スルヲ以テ、石油ヲ水面ニ灌クトキハ之カ爲メニ呼吸不能トナリ、遂ニ死滅スルニ至ルヘシ。其外池沼ノ模様ニヨリ養魚ヲ爲スモ亦良法ナリ

「マラリア」患者ノ多キ地方殊ニ湖邊ニ近キ地ニ在リテハ、蚊ノ發生セントスル四五月頃及蚊ノ冬眠ニ就カントスル十月又ハ十一月ノ頃、毎夜各室ノ襖障子ヲ明ケ放シ、除虫菊橙皮等ヲ燻ヘテ、蚊ヲ滅殺スルトキハ、只ニ病毒ヲ存スル蚊ヲ殺スノミナラス、蚊ノ發生ヲ少カラシムルコトヲ得ヘシ

二、「マラリア」ノ豫防法

「マラリア」蚊ト雖モ、病毒ヲ有セサルモノハ、如何ニ人ヲ刺ストモ、病ヲ媒介スルモノニアラス、「マラリア」患者ノ血液ヲ吸ヒタル蚊カ、初メテ恐ルベキ有毒蚊トナルコトハ、前ニ述ヘタルカ如シ。故ニ「マラリア」患者カ、蚊ニ刺サレサルコトハ豫防ノ神髓ナリ。依リテ初發ノ「マラリア」患者ニハ、直ニ治療ヲ加ヘ、病毒散逸ノ機會ヲ少カラシムルハ勿論、全快スル迄ハ、蚊ニ刺サレサル様、必ス患者ヲ蚊帳内ニ隔離スルコトハ、豫防上重要ノコトナリ

世人或ハ「オコリ」ヲ患フトキハ、直ニ治療スルコトヲ爲サス徒ニ服藥ヲ怠リ、三四回發作(寒ケシテ出)ノ後、初メテ落シ藥ヲ用キ、或ハ種々ノ迷信ニ依リ養生スルモノナキニアラス。此ハ大ナル誤リナリ。「マラリア」ニ罹ラハ速ニ服藥シテ早ク病ヲ癒シ其ノ病毒ヲ散逸セシメサル様努ムヘキコトナリ

三、患者家族ノ豫防的服藥

家族内ニ一人ノ「マラリア」患者アル時ハ屢々引續キ其ノ家族ニ同患者ノ發生スルコトアリ。之レ患者室内ノ蚊カ其ノ病毒ヲ媒介スルカ爲メナリ、故ニ「マラリア」患者ノ家族ハ特ニ豫防法ヲ講スルノ必要アリ「マラリア」原虫ヲ撲殺スルニ特效ヲ奏スル藥品ヲ「キニーネ」ト云ヒ、普通藥ニシテ何人モ隨意ニ購ヒ得ヘシ。患者ノ家族カ豫防的ニ「キニーネ」ヲ服用スルトキハ、假令、有毒蚊ニ刺サル、モ病ニ罹ル事ヲ免レ得ヘシ、故ニ患者ノ家族ハ第二項ノ豫防法ヲ講スルノミナラス、豫防的ニ「キニーネ」ヲ服用スルコトハ本病豫防上獎勵スヘキコトナリ

「キニーネ」ハ苦味ニシテ服用シ難ケレトモ、之ヲ丸藥ト爲シタルモノニ糖衣ヲ被セタルモノハ、服用シ易ク、且ツ「キニーネ」ノ含量モ確實ナルヲ以テ、之ヲ家庭ニ準備シ置キ、必要時ニ用ユレハ、至極便利ナラン、其服用量ハ次ノ如シ

「キニーネ」ノ服用量 (鹽酸キニーネ及硫酸キニーネ共ニ服用量ハ同量ナリ)		備考
大人	十五歲迄	苦味ナルニヨリ「オブラ」トシテ又「カフセル」ニ入レテ用ユ一瓶代價七十錢位
十二歲迄	七歲迄	
七歲迄	服用回数	
一ヶ月間	ニ服用ス	
ニ服用ス		
鹽酸キニーネ 硫酸キニーネ	〇・五乃至〇・七グラム 〇・三乃至〇・四グラム 〇・二乃至〇・三グラム 〇・二グラム(〇・二グラム) 〇・二グラム(〇・二グラム)	

糖衣鹽酸キニーネ丸 糖衣硫酸キニーネ丸	五粒乃至七粒	三粒乃至四粒	二粒乃至三粒	二粒	粒	同上	一丸中キニーネ〇・二チ含ム五百粒入一圓二十五錢
------------------------	--------	--------	--------	----	---	----	-------------------------

(二〇) 岐阜 縣

一、「マラリア」ノ蔓延状態

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

以上左表ノ如シ

第三項及第五項以下ニ就テハ保健衛生調査ノ進行ト共ニ調査スルノ豫定ナリ

大正六年度「マラリア」患者表

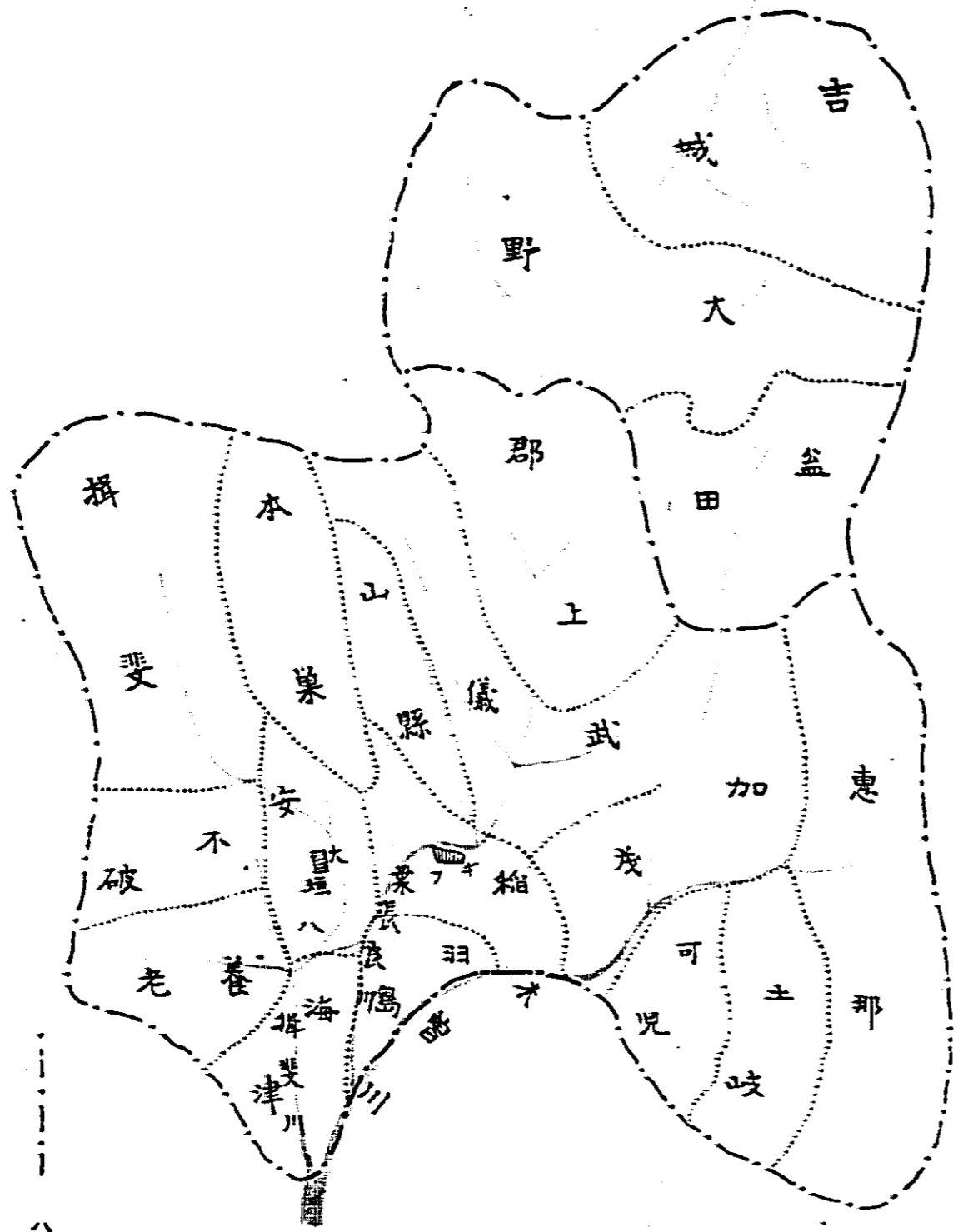
郡市別	マラリア患者數	現住人口	千分比
海津郡	四九二	二九、一七二	一六・八六

海津郡	郡市別	大正七年度徴兵検査成績表											
		甲種合格人員 百分比	乙種合格人員 百分比	身長平均	体重平均	トヲホ 人員ニ對スル 百分比	花柳病検査 人員ニ對スル 百分比	其ノ他疾病 検査人員ニ對ス 百分比					
		三六・八	三四・九	五・三二	一三・七	二〇・四	三・九	一六・一					
計													
年	別	患	者	別	發	生	患	者	別				
一	年	二	七	一	一	月	一	三	二				
二	年	一	四	二	二	月	二	三	五				
三	年	一	四	二	三	月	三	八	五				
四	年	一	五	三	四	月	四	六	〇				
五	年	一	五	三	五	月	五	〇	〇				
六	年	一	二	三	六	月	六	五	〇				
七	年	一	二	三	七	月	七	〇	九				
八	年	一	〇	〇	八	月	八	七	三				
九	年	一	〇	〇	九	月	九	七	三				
十	年	一	二	三	十	月	十	三	二				
十一	年	一	四	二	一	月	一	三	二				
十二	年	一	四	二	二	月	二	三	二				
計			四、四九〇		計		二		四、四九〇				

大正六年中「マラリア」病患者年齢別及發生月別表

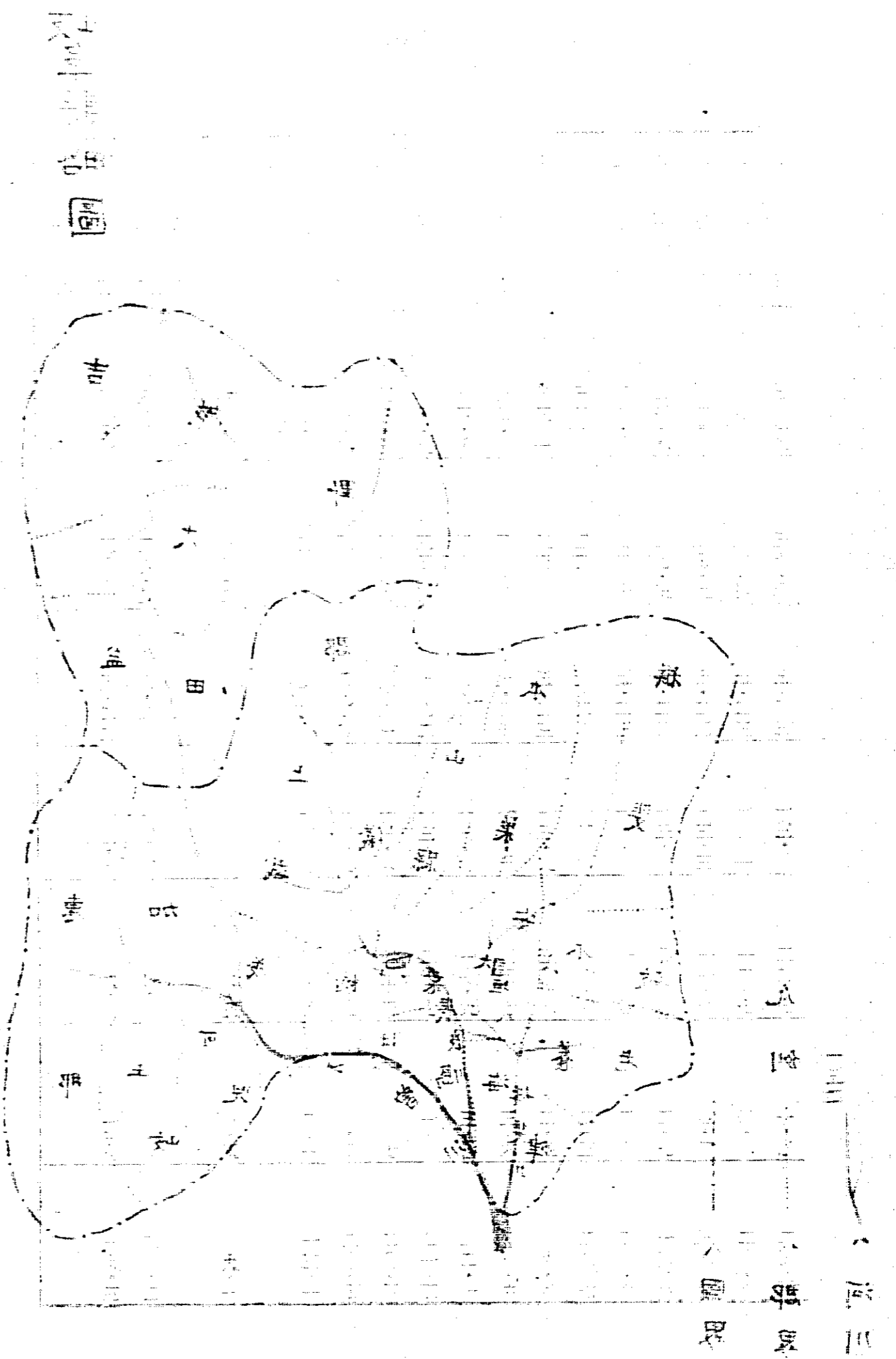
計	大郡土吉嘉益山加武可禰岐本不養彌安羽																	
	野上	岐城	那田	縣茂	儀兒	豊阜	粟破	老葉	八島	八島	八島	八島						
四、四九〇	八	一八	一九	一六	三九	一七	二〇	五五	一一二	五五	二〇四	二〇〇	二〇三	一八七	二七一	七三〇	一、〇四九	七九二
一、二二二、四四四	五四、一二〇	六四、〇〇一	六四、五〇四	四九、三八一	一〇一、六八六	三一、九五〇	三三、四四六	七六、九一二	一〇〇、四六〇	四三、七〇二	五八、三六四	五三、七八一	五二、四四九	三三、五一九	三五、七三四	九五、九三四	八二、二二五	六一、二〇五
	〇・一四	〇・二八	〇・二九	〇・三二	〇・三七	〇・五三	〇・五九	〇・七一	一・一一	一・二五	三・四九	三・六〇	三・八七	五・五七	七・五八	七・六一	一二・七五	一二・九四

岐阜縣略圖



八河川
 八郡界
 八國界

大野郡	土岐郡	吉城郡	惠那郡	益田郡	山縣郡	加茂郡	武儀郡	可兒郡	榑皐郡	岐阜市	本巢郡	不破郡	養老郡	稻葉郡	大垣市	安八郡	羽島郡
四〇七	三三六		四四六	三五五	三一二	三三五	二八九	三四五	三五〇	三三一	三三六	三六八	三四八	二六三	三七八	三二九	
三〇七	三四二		一四二	三一二	三七六	三四九	三五四	三七一	三〇三	三五六	三四〇	三二七	三七五	三五九	三六四	三五〇	
五二二	五二〇			五二〇	五二四	五二二	五二二	五二四	五二五	五二三	五二二	五二三	五二二	五二三	五二三	五二三	
一三八	一三三			一三七	一三七	一三六	一三四	一三九	一三五	一三九	一三六	一四〇	一三九	一三三	一四一	一三八	
九八	四一		九三	三七四	一二七	二五五	二〇七	一七九	三五七	三〇八	六六	一一四	四六〇	一一四	一二七	二二七	
一七	一五		一五	二一	一四	七	一六	三〇	三六	二四	二三	二四	二七	四二	二八	一三	
一九三	二六二		九一	一三一	二〇五	二〇四	二一三	二二一	三六	一九八	二二七	二一九	一五五	三八九	二〇五	二五五	



(二二) 長野縣

一、「マラリア」ノ蔓延状態

縣下諏訪郡平野村ニ於テ大正五年中廿二名大正六年中十八名大正七年中十七名

上伊那郡ニ於テ大正七年中伊那町二名赤穂村三名七久保村三名中澤村二三名ノ患者アリタルノミニシテ其ノ他最近數年間ニ同病ノ發生シタルコトナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

大正七年中上伊那郡ニ發生シタル患者ハ新潟縣ヨリ出稼ニ來ル者ニシテ其ノ原因不明ナリ又諏訪郡平野村ハ多數ノ製糸工男女等カ出入スルヲ以テ他府縣ヨリ病毒ヲ携帯シ來リタルモノ、如クニシテ縣内ニ於テ特發シタリト認ムヘキ患者無ク且ツ該病ノ發生シタル地方稀ナルヨリ之ニ對スル調査成績トシテ擧クヘキモノナシ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健状態

前項ノ如ク該病ノ病竈地ト認ムヘキ地方無ク且ツ該病ノ發生尠キヲ以テ住民ノ保健状態ニ影響ナシ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較
發生地ト其ノ他ノ地方トノ差別ナシ

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

該病ノ發生種メテ稀ナルヨリ本縣ニ於テハ之ニ對スル特定ノ豫防撲滅ノ施設ナキモ春秋二季ノ清潔
法施行等ニ對シ下水溝汚水溜等ノ掃除ヲ嚴行セシメ蚊ノ驅除撲滅ヲ圖リツ、アリ

六、「マラリア」豫防撲滅事業ニ要スル經費

無シ

七、將來ノ計畫

本縣ニ於テハ未タ本病ニ對スル豫防撲滅ニ對スル施設計畫中ノモノ無シ

八、其他參考事項

無シ

(二二) 宮城縣

本縣ニハ該當事項ナシ

(二三) 福島縣

本縣ニ於ケル「マラリア」患者ハ福島、若松ノ兩市及郡山、白河ノ各町等ノ交通關係滋キ地方ニ年々七
八十名内外ノ發生ヲ見ルモ之等ハ殆ント常ニ他地方ニ出入セルモノ又ハ他縣ヨリ來往セルモノ其ノ他
旅行中發病セルモノ等ニシテ現在ノ狀況ニ於テハ地方一局部ニ續發スルカ如キ事實ナシ
叙上ノ如クナルヲ以テ本縣ニ於テハ本病竈地ト目スヘキ地方ナキヲ以テ未タ特ニ之カ豫防計畫等ナシ

(二四) 岩手縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣ニ於ケル「マラリア」ノ發生期ハ詳ナラサントモ明治二十七、八年日清戰役ノ當時凱旋者中ニ本

病ニ感染セシモノアリ一時發生ヲ見タリシモ之カ爲メ蔓延シタル状態ナク最近三ケ年間ニ於ケル罹病者ヲ調査スルニ左記ノ通りニシテ縣内發生中一、二原因不詳ヲ除ク外列記地方ニテ感染歸來シタルモノニシテ從來ノ患者ニ徴スルニ二、三年間ハ再發スルノ傾向アリ

一、「マラリア」ニ關スル調査成績

大正 同 同 同 七 六 五 年 年 年 年	患者數	同上ノ内感染歸來セシモノ				縣内ニテノ發生
		朝鮮	臺灣	八重山	北海道	
二五	三三	三	一	一	一	二二
二五	三三	三	一	一	一	二〇
二五	三三	三	一	一	一	二三

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健状態

前項ノ如クニテ病竈地ト認ムヘキモノナキモ縣内發生中其ノ主ナル地ハ氣仙郡下ニシテ其ノ詳細ハ研究中ナリ

(二五) 青森縣

一、「マラリア」ノ蔓延状態

本縣ニ於ケル「マラリア」蔓延状態ニ就テ調査スルニ大正五年以降大正七年迄ノ患者總數七百十一人ニシテ發生區域ハ一市六郡三十六ヶ町村ニ亘レリ而シテ其ノ發生數モ漸次増加蔓延ノ傾向ヲ示セリ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

從來之ニ關シ特ニ調査セシコトナシ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健状態

上述ノ如ク「マラリア」發生區域ハ一市六郡ノ町村ニ亘ルモ就中病竈地ト認ムヘキハ西津輕郡車力村(三ヶ年間發生患者二百二十人)上北郡藤坂村(三ヶ年間發生患者百四十二人)六戸村(三ヶ年間發生患者百三十六人)ノ三ヶ村ニシテ其ノ他ハ殆ント散發的ナリ而シテ西津輕郡車力村ハ彼ノ有名ナル岩木川ノ下流十三湖ニ沿ヒタル村落ニシテ西方屏風山ニ接セル部落ハ土地高燥ナルモ其ノ他ノ岩木川及十三湖ニ沿ヒタル大部分ハ低濕ニシテ殊ニ岩木川ノ汎濫ニ依リ屢々河水ノ浸漬ヲ蒙リ衛生上不良ノ地勢ナリ又上北郡藤坂村及六戸村ハ相隣接セル村ニシテ殊ニ其ノ發生部落ハ接續シ居リ兩村共地勢低濕ニシテ衛生上良好ナラス而シテ前記兩村ニ於ケル住民ノ保健状態ニ就テ特ニ徴スヘキモノナキモ前記ノ各村ニ於ケル死亡率ヲ縣郡ノ平均ニ對比スルニ左表ノ如ク高率ヲ示セリ

村	死亡千分率	郡	死亡千分率	縣ニ於ケル平均死亡率
西津輕郡 車力村	二三・六〇	上北郡	一三・一〇	二〇・三〇
藤坂村	二二・〇九			
六戸村	二〇・五六			

上記各村ニ發生セル「マラリア」ハ比較的良性ニシテ兒童ノ之ニ罹ルモノアルモ一週間前後ノ休學ニテ快復シ患者ハ勿論父兄モ別ニ介意セス從テ醫療ヲ乞フモノ稀ナリ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

縣下各郡市ノ徵兵合格率ハ別表ノ如クニシテ病竈地ナル車力村ノ合格率三七七・七七(千分率)藤坂村ハ七七七・七七、六戸村ハ六三四・六一ヲ示セリ

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

未タ何等施設セシモノナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係

ナシ

七、將來ノ計畫

適當ノ時機ヲ撰ミ前記三村ノ精密ナル調査ヲ施行シテ村民ヲシテ共同治療ヲ爲サシメントス

八、其他參考トナルヘキ事項

ナシ

大正七年度徵兵合格率郡別表

東	西	南	北	中	上	下	三	弘	青
津	津	津	津	津	北	北	戸	前	森
輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	市
四九九・〇〇	六八八・六〇	七二八・九四	六九五・七〇	六二九・六二	五四九・二三	四九七・七三	五二〇・〇九	七一・七九	四二二・五九
	車力村				六戸村	藤坂村			
	三七七・七七				七七七・七七	六三三・六一			
千 分 率									

「マラリア」患者數調

合	東	西	中	南	北	上	下	三	弘	奇
	津	津	津	津	津	北	北	戸	前	森
計	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	市
	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕	輕
	大正五年	大正六年	大正七年十一月迄							
	一七七	二四五	二八九	七四	一〇四	一一五	四	二	二	二
	五	三	二	一五	二二	二二	四九	三〇	三	一

(二六) 山形縣

本縣ニ於テハ從來本病蔓延ノ事例ナク偶患者發生シタルコトナキニアラサルモ至テ稀少ニシテ豫防施設ヲ加フルノ程度ニ至ラス從テ該當スヘキ事項ナシ

(二七) 秋田縣

該當事項ナシ

(二八) 福井縣

- 一、「マラリア」ノ蔓延狀態
- 二、「マラリア」ニ關スル調査成績
大正七年中ノ事實ヲ調査シタルモノ左ノ如シ
- 三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態
目下調査中

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較
目下調査中

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設並經費關係

各地一般ニ下水溝渠ノ浚深雜草ノ芟除ヲ行ヒ又衛生講話會ニ於テ該病豫防治療ニ關スル講話ヲ爲ス等ノ方法ニ依リ豫防撲滅上留意シツ、アレトモ特記スヘキ施設トシテハ左ノ各地ニ於テ施行シタルモノヲ主タルモノトス

坂井郡葦原村温泉場ニ於テ大正七年ノ夏期每週下水溝渠ニ石油ヲ撒布シ蚊族ノ撲滅ヲ計リタリ其ノ費用約四拾圓ハ葦原温泉場協議費ヨリ支出シタリ

今立郡鯖江町ニ於テハ大正七年夏期中每週下水溝渠ニ石油ヲ撒布シ及下水溝渠中排水不完全ナル箇所ニハ之カ排水溝ヲ新設シ又水溜悪水路等「ボウフラ」發生ノ箇所ヘハ「タツプ」魚ヲ放飼シ以テ蚊族ノ撲滅ヲ期シタリ今立郡ニ於テハ尙大正七年「マラリア」豫防ニ關スル注意事項ヲ記載シタル印刷物ヲ郡内各戸ニ配布シタリ

右ニ要シタル費用即チ豫防注意事項印刷費約參拾圓石油代約八拾五圓排水溝新設費約參拾圓「タツプ」魚買入費拾八圓五拾錢等ハ何レモ町村ノ衛生費中ヨリ支辨シタリ

南條郡武生町ニ於テハ大正七年六月中一戸ニ付石油三合宛ノ割合ヲ以テ下水溝渠等及塵芥堆積ノ箇所ヘ撒布シ蚊族ノ發生妨止ニカメタリ而シテ其ノ費用ハ各區協議費中ヨリ支辨セリ

敦賀郡敦賀町及東浦村、松原村ノ一部ニ於テモ大正七年中下水溝渠ヘ石油ヲ撒布シタリ

次項記載ノ警察部長ノ訓示並ニ指示ニ基キ各地トモ蚊族ノ撲滅ヲ爲スヘク計畫中ニシテ又衛生講話會ニ於テモ更ニ該病豫防撲滅ニ關シ一般ノ注意ヲ喚起スル筈ナリ

本縣ニ於テハ大正七年七月警察官署ニ對シ警察部長名ヲ以テ別紙ノ如キ訓示ヲ發シ又大正七年六月開催シタル警察署同分署長會議ニ於テ別紙ノ通り指示スル所アリタリ

大正七年中「マラリア」患者調査表 第一表 年齢別及男女別

郡市別	男女及年齢別		五歳以下		六歳以下		十一歳以下		廿一歳以下		三十歳以上		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
福井	六三	六〇	二五	二〇	六三	六六	二〇	二四	九	九	二六八	二六五	五三三	五三三
足羽	二九	二八	二六	二二	一〇〇	一〇一	五九	五九	七三	七〇	二七三	二七〇	五四三	五四〇
吉田	二六	二二	二七	二二	四九	四七	一七	一七	一〇	一〇	一六九	一六六	三三五	三三二
坂井	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
大野	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
今立	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
丹生	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
南條	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
敦賀	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
計	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇

郡市別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	人口千歩合	
三	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
教	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
南	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
丹	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
今	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
坂	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
吉	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
足	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
福	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
計	1	1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

大正七年中「マラリア」患者調査表 第三表 發生月別

一六五

總計	大坂	遠野	三
3,863	6	57	1
6,850	6	23	1
10,300	1	9	1
1,999	2	1	1
1,800	1	1	1
5,491	1	1	1
1,855	3	6	1
16,013	3	15	1
平均	100.0	31.1	40.4

郡市別	總患者	醫師ノ治療	實藥ヲ使用シタル	實藥以外ノ藥品ヲ使用シタル	禁服新藥	其ノ他ノ治療方法ヲ講ジタル	放任	計	患者百歩合
三	2,775	2,875	1,825	3,495	1,435	1,265	2,105	2,775	3,863
教	500	2,850	2,300	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
南	2,850	1,100	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
丹	3,000	1,100	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
今	3,500	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
大	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
坂	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
吉	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
足	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
福	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863
計	3,000	1,000	1,000	2,800	2,100	2,000	2,800	2,800	3,863

大正七年中「マラリア」患者調査表 第二表 治療方法種別

一六四

總計	大	遠
計	飯	敷
元		
壹		
二五		
八七		三
*一、八五		一六
*三、七九		七
*四、六七		一〇
*五、三三		六
*三、七〇		二
*一、二五		三
*二、六四		
三		
*三、八三		五
三三		六
平均三八		〇・九

一六六

警訓甲第三六號

警察分署

百日咳麻疹「マラリア」等ハ毎年幾多ノ小兒ヲ胃シ其ノ慘害鮮シトセサルモ從來百日咳ハ醫療ヲ受クルモ容易ニ治癒セサルモノトシテ自然ノ經過ニ委セ又麻疹「マラリア」ノ如キハ概シテ輕症ナルカ爲メ醫療ヲ受クルモノ尠ク殊ニ村落等ニ於テハ風ノ神送り麻疹除瘡落等種々ナル迷信的禁厭ヲ信憑シテ治療ノ時期ヲ失シ遂ニハ他ノ疾病ヲモ誘發シテ不慮ノ轉歸ヲ見ルコトナシトセス斯ル弊習ハ小兒ノ死亡率ヲ多カラシムヘキ一因ナレハ各地ニ開催スル衛生講話會等ノ機會ヲ利用シテ漸次該弊習ヲ打破スルニ勉メ又檢病的戸口調査ノ際等ニ斯種患者ヲ發見シタルトキハ醫療ヲ勸奨スル等ノ方法ヲ講セラルヘシ

右訓示ス
大正六年七月九日

福井縣警察部長

大正七年六月警察署長同分署長會議指示事項

六、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ關スル件

「マラリア」ハ普通直接ノ死因トナラサルヲ以テ從來意ニ介セサルモノ多シト雖人體ヲ虛弱ニ陥ラシメ他ノ重篤ナル疾患ノ素地ヲ造リ管ニ衛生上恐ルヘキノミナラス延テハ經濟上ノ損失ヲ來スコト大ナルヲ以テ極力之カ豫防撲滅ニ努メラレンコトヲ望ム

(別紙)

「マラリア」豫防撲滅方法

「マラリア」ヲ豫防撲滅スルニハ蚊族ノ撲滅ヲ計ルヲ第一トス而シテ若シ之ニ胃サレタルトキハ「キニ」ノ「ネ」ヲ適當ノ方法ニテ内服スルヲ可トス

蚊族撲滅方法

- 一、下水溝渠等ハ能ク浚深シ疏通ヲ計ルコト
- 二、沼澤其ノ他水溜等ハ排水ノ途ヲ講シ乾燥ヲ計ルコト
- 三、雜草木ノ叢生セルモノハ之ヲ除去シ竹木林等ハ伐截若クハ地盤ヲ清潔ナラシメ日光ノ透射ヲ計ル

四、魚類ノ棲息シ得ヘキ場所ニハ其蕃殖ヲ計ルコト
五、子子ノ發生スル候アル水面ニハ三日乃至七日毎ニ石油ヲ撒布スルコト

(二九) 石川縣

本縣ニ於テハ未タ調査シタル事實ナシ

(三〇) 富山縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本病ハ每年初夏ヨリ初秋ノ交ニ亘リ縣下ノ各所ニ散發シ罹病者ノ多クハ小學兒童ナリト雖其ノ數比較的僅少ニシテ蔓延流行ト認ムルカ如キ狀況ナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

本病ニ就テハ未タ的確ナル調査ヲ遂ケタルコトナキモ一ケ年約千二三百名アリ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

縣下射水郡ハ比較的多數發生スルモ特ニ病竈地ト目スヘキ箇所ナシ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

該當ナシ

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

前項ノ如ク本病ハ比較的少數ナルノミナラス豫防後一般ニ良好ニシテ人命ヲ損セス從テ之カ豫防撲滅ニ對シ専ラ施設シタル事項ナシト雖モ主トシテ虎列刺ノ豫防ニ兼テ本病ト重大ノ關係ヲ有スル蚊虫類ノ發生ヲ防遏スル爲メ本年ハ左記第七項ニ記載ノ施設ヲ實行シタルニ該病ノ豫防ニ著シキ効果アリタリ

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係

既往縣費ヲ以テ之カ豫防上特ニ施設シタル事項ナシト雖數年來傳染病豫防ノ目的ヲ以テ下水溝渠ノ浚渫等ヲ督勵シ來リタル結果蚊類ノ發生ハ漸次減少シタリト雖大正五、六兩年ニ於ケル虎列刺ノ流

行ニ鑑ミ本年ハ急進的下水溝渠ノ改善浚渫ヲ極力督勵シ其ノ他塵芥ノ取締等ヲ嚴ニシ一面飲料水ノ改良ヲ促進シ尙下水溝渠塵芥溜等ニハ四月ヨリ十月ニ至ルマテ石油乳劑又ハ石灰ノ撒布ヲ勵行セシメタルニ因リ著シク蚊蠅類ノ發生ヲ抑防シ延テ「マラリア」ノ豫防上多大ノ効果ヲ收メタリ而シテ本年石油乳劑又ハ石灰使用狀況ノ一斑ヲ左ニ表示ス

七、將來ノ計畫

下水溝渠ノ改善ヲ企圖獎勵シ尙且ツ石油乳劑又ハ石灰ノ撒布宅地周圍ノ排水並樹枝ノ伐採等之レカ獎勵ニ依リ蚊類ノ撲滅ヲ計リ以テ本病ノ豫防ヲ爲サムトス

石油乳劑石灰使用高調査表

郡市別	町村數	石油乳劑		石灰	
		數量	價格	數量	價格
上新川郡	二四	二四	三、七三五	一、一〇八・〇〇〇	一〇六・〇一〇
中新川郡	三四	三四	四、九三一	一、七二一・〇八〇	二七三・六〇〇
下新川郡	四三	外	九、〇〇六	二、二五七・〇六〇	三六三・四六五
婦負郡	三三	外	二、〇〇〇	六〇六・九八〇	三六二・六四〇
射水郡	三二	外	一、〇〇九	一、三八四・八二五	四九六・九二〇

(三二) 鳥取縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

散在的ニ發生シ蔓延ノ狀況ナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

左表ノ如シ

郡市別	町村數	石油乳劑町村數	石油乳劑		石灰	
			數量	價格	數量	價格
氷見郡	二二	一九	一、九六三	五九三・〇〇〇	一、八五一・〇〇〇	一四二・四四〇
東礪波郡	三九	三八	四、五二一	一、六四六・八五〇	三、六六九・〇〇〇	三八一・九三〇
西礪波郡	四三	外	四、九五九	一、三三三・一二〇	二、〇〇四・〇〇〇	一三七・一六〇
富山郡	一	一	四、九七〇	一二九・八二〇	五二五・〇〇〇	七二・〇二〇
高岡市	一	一	一四、二四八	六四一・一六〇	五七・〇〇〇	三・六〇〇
合計	二六九	二六五	三九、五〇六	一、一九三・二二五	三二、四八九・五〇〇	二、三三九・七八五

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

別ニ異ナリタル狀態ナシ

(別表)

「マラリア」患者調査表

合 計	日 野 郡	西 伯 郡	東 伯 郡	氣 高 郡	八 頭 郡	岩 美 郡	島 取 市	大 正 四 年		大 正 五 年		大 正 六 年		計	
								男	女	男	女	男	女	男	女
一四		一	七			五	一								
五			二		一	三									
二三			九		二	三									
七			一		一	五									
二四		一	六		七	七	三								
七			二		二	三									
六一		二	三		九	四	四								
一九			五		三	一									

(三二) 島 根 縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本病蔓延ノ狀態ナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

本縣管内醫師ニ於テ診療シタル「マラリア」患者ハ大正五年十三名、同六年十六名、同七年十八名ナリ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

病竈地ト認ムヘキ地方ナク偶々臺灣、朝鮮等へ出稼ヲナス者アル海岸部ニ於テノミ散在性ニ發生スルコトアルニ過キス從テ住民ノ保健上ニ及ホス影響著シカラス

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

病竈地ト目スヘキ地方ナキヲ以テ比較スル能ハス

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

從來本病ノ流行ヲ認メサルモ豫防ニ關シテハ衛生講話會衛生展覽會等ノ機會ニ於テ注意ヲ喚起シ居